

平成27年度事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

[概要]

社団法人として47年の事業活動を経た後、法改正により一般社団法人としての事業活動に移行して3年を経過した年度であった。

この3年間における食品行政の変化は、めまぐるしいものがあり、平成25年6月28日の新食品表示法の公布に伴い、本年度当初の平成27年4月1日には、新食品表示法が施行され、それに伴い機能性表示食品制度も新たに実施され、さらに10月5日には、我が国の流通食品業界を揺るがすTPP合意があり、多くの波紋を菓子・食品業界に投げかけた年度でもあった。

当法人にとって特筆すべき関連事項は、機能性表示食品制度のガイドラインで示されている「食事摂取基準が策定されている栄養素を含め、食品表示基準別表第9の第1欄に掲げる成分は、機能性成分として対象外」という事項であった。

これは端的にいうと、オリゴ糖類や食物繊維などの機能性を持つ成分は対象外、ということであり、食品業界あげて看過することのできない大きな問題点であるため、機能性食品素材業界の中心となっている当法人は、業界の総意として、消費者庁長官に対し、当該事項の見直し要望書を理事長名で発出し、現在も懸案事項として検討されている状況である。

一方日本経済は、東日本大震災の支援効果やオリンピック開催予定景気によって右往左往する年度でもあったが、ゼロ金利政策に伴い、アベノミクスも混沌とした状況のようで、中小零細企業にとっては、必ずしも楽観できる状態ではなかったといえよう。

その中であって当法人の事業活動は、総務部を軸として試験検査事業部、食品新素材事業部が連携し、菓子類及び菓子原料に関する衛生検査、品質保持に関する技術研究を実施したほか、会員企業の持つ食品新素材の新規利用開発試験を行うとともに、農林水産省「消費者の部屋」、「ifia JAPAN 2015」及び「食品開発展 2015」等を活用して普及活動を展開した。

実施事業を列挙すると、以下の通りである。

- I. 食品新素材に関する知見を広く適正に普及する目的で、従来、農林水産省の委託・推薦事業であった食品新素材利用事業技術シリーズと、消費者向けパンフレットを、機会あるごとに広く配布・普及した。
- II. 試験検査事業部は、厚生労働省指定の食品衛生登録検査機関として、一般流通菓子・食品の試験検査、衛生検査及び厚生労働大臣の指定する食品の命令検査等を行

ってきたが、菓子類、一般食品の自主検査件数は、景気低迷が続く中、不況時代を象徴して、前年を下回った。

また、菓子類の安全指標としてのSQマーク事業は、食品表示問題が未だはっきりしない状況の中で、関係者は戸惑いを感じている向きもあり、政府主導の様子見をしているという感も見受けられるが、不祥事が後を絶たない昨今、SQ検査・SQマークの重要性が認識され、SQの関心は高まってきていると認識している。

なお、登録検査機関として、検査業務の向上を図るべく職員の外部研修・外部検査機関への見学・情報交換の機会を積極的に持った。

更に、専門講師を招いての内部研修会を実施して、新しい技術向上と検査依頼会員等へのサービス向上に努めている。

III. 食品新素材事業部として、研究会を1回開催するとともに、ifia JAPAN 2015、食品開発展 2015、農林水産省「消費者の部屋」等における特別展示会に協力して、これからの新しい時代に適応した食品新素材及びその活用食品等を実際に配布し、普及・啓発を行った。

また、「日本食品新素材研究会誌」は、諸般の事情により平成26年に引き続き休刊とした。

IV. 一般財団法人東京菓子協会との協力普及事業である季刊広報誌「お菓子フォーラム」を4回発行した。

V. 全国菓子工業組合連合会が行う高度化基準認定業務に協力した。

VI. 豆類加工研究会事業として、研究会を2回開催、食品新素材利用マニュアルの配布・普及を行い、豆類加工技術の振興に寄与した。

[事業内容]

1. 総会

1) 通常総会 平成27年6月12日(金)開催

平成26年度事業・会計報告及び同監査報告、平成27年度事業計画、収支予算の決定、定款の一部変更、任期満了に伴う役員の変更を行った。

2) 総会終了後、記念講演 「蒸留酒、とくにウイスキーの話」

一般財団法人 自然環境センター 客員上級研究員 古賀 邦正 先生

2. 役員会

理事会 第1回 平成27年 5月19日(火)

2回 10月23日(金)

3回 平成28年 3月23日(水)

理事会においては、運営上の必要事項について報告、審議、決定した。

3. 各事業部会

1) 役職員月例会

総務部主催で毎月第一水曜日10時から、常勤役員、職員全員出席のもと、前月の業務状況報告、当月の予定等を告知・確認し、諸問題について職員全員での意見交換を行い、その後引き続いて検査事業部は内部研修を行っている。

2) 食品新素材事業部幹事会

食品新素材に関する知識の適正な普及と、業界の健全な発展を図る目的を遂行するため、技術部会、普及部会、編集部会が密接な連携を保ち、定例幹事会を農林水産省食料産業局食品製造課担当官陪席のもと毎月開催し、各部会と呼応して事業の推進にあたった。

4. 試験研究、検査、受託事業

1) 自主研究

(1) 流通菓子類の動向と品質調査試験

(2) 機能性食品素材の動向に関する調査研究

2) 食品衛生法に基づく製品検査、菓子類及び食品素材等の衛生検査事業

(1) 成績書発行数	：	自主検査	1, 913通
		命令検査	0通
		SQ検査	69通

(2) 菓子類の品質表示推進事業

SQマークの普及	：	12社	36品目
----------	---	-----	------

3) 受託検査関係

会員、団体からの受託契約による検査業務は前年より下回った。

4) 受託事業

(1) 食品新素材適正利用技術マニュアルの普及事業を展開。

(2) 民間委託事業として企業会員依頼の新規素材の利用適性試験を実施した。

(3) 豆類加工研究会関係事業

① 第53回研究会：平成27年4月16日（木）～17日（金）

② 通常総会及び第54回研究会：平成27年10月16日（金）

③ 豆類加工技術向上対策事業

④ 豆類加工研究会会員への各種情報、資料の配付

5. 研究会活動

1) 食品新素材研究会

第61回食品新素材研究会：平成28年2月5日（金）（糖業会館）

農林水産省食料産業局、(一財)食品産業センター、新食品会、NPO法人 ILSI Japan、東京都食品産業協議会、茨城県食品産業協議会、(一社)栃木県食品産業協議会、埼玉県食品工業会、(株)食品化学新聞社、UBMメディア(株)、「食品と開発」の後援を得て開催

[素材紹介] 参加費無料

- ①「機能性オリゴ糖ケストースの各種生理作用の紹介」物産フードサイエンス(株)
- ②「水溶性食物繊維素材フィットファイバー#80（難消化性グルカン）」
日本食品化工(株)
- ③「澱粉から酵素でつくる新しい水溶性食物繊維イソマルトデキストリン」
(株)林原

[基調講演] 有料

- ①「食品製造課施策の動向について」
農林水産省 食料産業局 食品製造課 松島 喜昭 氏
- ②「ヒト腸内細菌と健康ープロバイオティクス、プレバイオティクスの現在と今後の可能性ー」
東京農業大学 生物生産学部 食品香粧学科 遠藤 明仁 氏
- ③「メタボリックシンドローム対策のための栄養と運動」
名古屋大学大学院 生命農学研究科 下村 吉治 氏

2) 豆類加工研究会

(1)第53回研究会

：平成27年4月16（木）～17日（金） 13：00～

鹿児島市 ホテルパレスイン鹿児島 会議室

第1日目（4月16日木曜日）

[研究会講演課題]

- ①「2015年豆類の動向」
株式会社 森光商店 食品事業部 食料事業部
課長代理 今村 公俊 氏
- ②「かるかんの歴史」 昭和製菓株式会社 取締役 有村 雅憲 氏
- ③「鹿児島の特産物ーさつま芋ー」
有限会社 吉開フードシステム
管理本部 部長代理 宮田 隆宏 氏
- ④「小豆廃液の機能性について」
鹿児島純心女子大学 看護栄養学部 健康栄養学科
教授 医学博士 中野 隆之 氏

⑤「環境問題を逆手にとったエコスイーツ活動」

鹿児島大学 法文学部 副学部長 教授 大前 慶和 氏

第2日目（4月17日金曜日）

[見学会]

- ① 昭和製菓株式会社
- ② 知覧「特攻平和会館」 見学

(2)平成27年度通常総会及び第54回研究会

平成27年10月16日（金） メルクロスビル 9階 大会議室

[平成27年度 通常総会]

平成26年度事業・会計報告及び同監査報告、平成27年度事業計画・
収支予算の決定を行った。

[研究会講演課題]

- ①「豆類の動向及び中国・韓国における加糖あんの利用並びに消費動向について」
互明商事株式会社 大阪支店 第二営業部
雑豆チーム 食品チーム サブリーダー 松岡 淳二 氏
- ②「江口製餡の社長になって」
株式会社 江口製餡 代表取締役社長 渡部 寛樹 氏
- ③「北海道における豆作の現況と品質 -特に小豆・菜豆について-」
北海道立総合研究機構 農業研究本部 十勝農業試験場
研究部 豆類グループ 主査（小豆菜豆） 佐藤 仁 氏
- ④「食品製造業における高度化基盤整備」
（一社）菓子・食品新素材技術センター
研究所長 早川 幸男 氏

(3)豆類加工技術向上対策事業

(4)豆類加工研究会会員への各種情報資料の配布

3) お菓子フォーラム研究会 一般財団法人 東京菓子協会と共催

第88回研究会：平成27年11月20日（金）於 東京菓子会館

[課題] ① 「ビジネスマナーを見直しませんか？」

ビジネスマナーコンサルティング 代表 塚本 晃子 氏

② 「腸内細菌と健康」

株式会社 明治フードマテリア

取締役 新商品開発部長 譲原 一雄 氏

6. 普及・指導活動

1) S Qマークの普及

平成28年3月31日現在、 12社 36商品

A.	キャンデー類	:	1品
B.	チョコレート類	:	2品
D.	焼菓子類	:	7品
E.	スナック類	:	2品
F.	米菓類	:	2品
G.	油菓子類	:	10品
K.	和半生菓子類	:	5品
L.	和干菓子類	:	1品
N.	洋半生菓子類	:	1品
O.	洋干菓子類	:	4品
Y.	嗜好品類	:	1品

2) 技術情報等の普及活動

(1) 季刊誌「お菓子フォーラム」の発行 一般財団法人東京菓子協会と共同発行

No.	127	平成27年	4月	15日	発行
No.	128	〃	7月	15日	
No.	129	〃	10月	15日	
No.	130	平成28年	1月	15日	

(2) 食品新素材有効利用技術シリーズ、消費者啓蒙用パンフレットの普及

(3) 食品新素材の具体的な普及活動

- ① ifia JAPAN 2015の協賛及び展示
- ② 東京ビックサイト「食品開発展2015」における展示
- ③ 農林水産省本省「消費者の部屋」における展示
(H28. 2. 22 (月) ~ 26 (金))

3) 指導事業

(1) 職業訓練法人「東京都菓子学園」講師

食品化学	岡部裕子	理事
〃	熊谷晶子	理事
製菓理論	岡部裕子	理事

(2) その他各種研修会等の講師依頼に適宜出向 (理事・研究所長 早川幸男)

7. 外部団体への協力事業

1) 全国菓子工業組合連合会事業「製菓工場高度化計画認定」審査業務に協力

2) 行政官庁、関係団体連絡会への参加、協力

(1) 食品衛生法登録検査機関協議会の技術研修や連絡会への参加による職員の研修及び情報収集

(2) 日本農林規格協会連絡協議会、食品産業センター食品関連団体企業連絡会、行政官公庁主催の各種説明会及びその他食品関係懇談会等への参加、協力。

8. 庶務事項

1) 会員の状況

平成27年度末会員構成	個人会員	7名
	企業会員	113企業
	団体会員	14団体

2) 役員構成

役職	氏名	常勤・非常勤
代表理事 (理事長)	中久喜 輝 夫	非常勤
理 事 (副理事長)	奥 野 和 夫	非常勤
〃	加 藤 進	非常勤
業務執行理事 (専務理事)	勝 本 宏 子	常 勤
理 事	今 村 洋	非常勤
〃	岡 部 裕 子	常 勤
〃	熊 谷 晶 子	〃
〃	小 林 昭 一	非常勤
〃	西 村 久	〃
〃	早 川 幸 男	常 勤
〃	原 光 雄	非常勤
〃	針 谷 正 治	〃
〃	布 施 雅 昭	常 勤
〃	藤 田 邦 夫	非常勤
〃	山 田 澄 晴	〃
〃	山 本 領	〃
監 事	岡 本 光 治	非常勤
〃	山 本 正 次	〃

3) 職員 (平成27年度末)

研究所長	早川幸男	
事務局長	勝本宏子	
主任研究員	岡部裕子	
〃	熊谷晶子	
〃	稲葉利佳子	
研究員	伊藤菜希子	
〃	加藤利江	(非常勤)
〃	石原房子	(非常勤)
研究助手	加部亜由美	
〃	清水桜子	
〃	中島悠	
特別研究員	小林昭一	(非常勤)
〃	布施雅昭	

合計 13名